

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月24日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3893700025
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
(ユニット名)	たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	梶原 仁美
自己評価作成日	平成30年 6月 30日

<p>【事業所理念】 ここに入所してよかったと思っただけのグループホームを作る</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 地域の消防団との合同火災対応避難訓練を行った。実際に消防団が消火栓を使用して放水訓練を行った。避難は雨天のため規模は縮小となったが、初めて行うことで施設の作りや救助方法等確認していただくことができた。今後も継続していきたい。施設を解放しサロンなどに使用していただくために、社会福祉協議会へ依頼を行っているがまだ実現できていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 東南海地震等巨大地震による津波被害を想定し、海拔33メートルの高台に位置する事業所は開設5年目を迎える。原子力災害対策重点区域に位置する事業所は、伊方原発が災害に見舞われた際の緊急時対応として、放射線防護施設を設置するなど、利用者の安全確保に万全を期している。また前回の外部評価で課題に上がっていた地域とのつながりについても前向きに捉え、地域住民などと連携し合同避難訓練を行い、運営推進会議で報告するなど、積極的な取組みを実施している。施設長と管理者を中心に職員一丸となり、利用者が毎日笑顔で過ごせるよう、サービスのさらなる向上に努めている。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前の調査時やケアプランの見直し時に希望や意向を聞いている。また、日々の会話や表情から本人の思いをくみ取れるように努めている。	○	/	○	入居前に思いや意向を確認し、日々の暮らしの中で会話や表情を大切にしながら思いを汲み取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日常の様子や表情・行動等で本人の視点にたち、検討できるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族とは面会時や電話・通信にて状態をお伝えし、話をする機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居前の調査票や日常の様子をケース記録や申し送りノートに残し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で気づきを話し合いながら本人の思いにそえるように気をつけている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の調査時やアセスメントを参考にしている。また、気になることは面会時や電話などでご家族に聞いている。	/	/	○	家族からこれまでの暮らしぶりやこだわりなどを聞いており、他に気になることなどがある場合は、面会時に改めて確認するなど情報の収集に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し情報の共有と連携を図り、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の様子をケース記録に残し、職員間で情報を共有し把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の様子をケース記録に残し、職員間で話し合いまた、多職種とも連携を図りながら把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケース記録や身体状況表に記録し日々の変化など把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話や様子、職員の気づきをもとにユニット会やカンファレンス時に話し合っている。	/	/	○	毎月のユニット会議で、利用者が何を求めているか、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	できること、できないこと、何が不安でどうすれば喜んでいただけるかを考えながら話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会やカンファレンスで話し合い、ケアプランに反映している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	カンファレンス時に参加していただいているが、あまり意見を言わないことが多い。そのため普段の何気ない会話の中から思いや意向を見つけ反映できるように努めている。				本人の心身の状況を踏まえながら、職員は家族と話し合いながら昔から好きなことを取り入れるなど、意見を反映して介護計画を作成している。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族から意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映し介護計画をしている。また、往診時には主治医より助言をもらいケアに生かしている。	○		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	農家をされていた方には施設近くの菜園のお世話を一緒にしていただいたり、お花がお好きな方には水やりと一緒にしていただくなどを盛り込んだ内容となっている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族に協力依頼し地域行事の参加や面会回数を増やしていただくようお願いしている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでも見られるようにファイルに閉じ共有している。			○	介護計画は個人ファイルで共有を図り、ケース記録に残し、毎日のケアの実践を確認している。利用者の言葉や表情等は細かく書き添えている。ユニット会議で利用者一人ひとりについて話し合い、気づき等がある場合は丁寧に記録している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケース記録に残し、毎日モニタリングを行い現状確認ができるようになっている。また、申し送り時には状況の変化の確認を行っている。			○		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	身体状況表への記入や、毎日の様子をケース記録に残している。ケース記録に関しては病院受診が必要になる場合もあるため詳細に残すように心がけている。			○		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ユニット会で利用者一人一人について状態や気づきなどを話し合い会議録に残している。			○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年で見直しを行っている。			○	基本6か月毎に見直しを行っている。毎日モニタリングを行い、月1回のユニット会議で問題点について話し合っている。状態に変化があった場合にはその都度見直しがされ、利用者にとってより良い介護計画となるよう、職員は家族と話し合いながら取り組んでいる。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎日モニタリングを行い、月末には総括をし現状確認を行っている。			○		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合には、家族等へ連絡し見直しを行うようにしている。			○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月職員会やユニット会を行い、また必要時には緊急ミーティングを開催している。			○	毎月ユニット会議や職員会議を開催している。必要時には緊急ミーティングを行い、課題解決を図るようにしている。参加できない職員は、ユニット会ノートを確認するなどし共有に努めている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	参加者全員が発言できるように問いかけを行い、意見交換をしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	変則勤務のため全員の参加は難しいが、遠方の職員の勤務に合わせるように工夫している。また、昼間に行うようにしている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを見てもらい、また口頭でも申し送るようにしているが、きちんと伝わらないこともある。ユニット会や職員会で仕組みについて話し合いを行っている。			○		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	ケース記録や連絡ノートなどで共有している。確実にできていないこともあるため、ユニット会や職員会で仕組みについて話し合いを行っている。			○	利用者の状況は申し送りノート、その他の事項については連絡ノートで使い分けをして情報伝達している。確認後はサインを忘れないよう留意している。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ケース記録や連絡ノートなどで共有している。確実にできていないこともあるため、ユニット会や職員会で仕組みについて話し合いを行っている。	○				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	施設内でできることは可能な限り叶える努力はしているが、外出は立地的にも難しく事前に希望を聞き計画を立てている。	/	/	/	職員は利用者が自己決定できるよう支援している。食事介助時にも食べたい物を聞きながら口へ運ぶなど、表情などを確認しながら支援している。趣味を活かした生け花や菜園の世話など、利用者の生き生きした言動や表情が出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	自己決定の場面づくりを大切にしながら、生活の中で関わりながら声掛けを行っている。意思疎通が困難な方もおられるためわかりやすい声掛けを行いながら自己決定の機械や場を作るように努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人一人に合わせた声掛けを行いながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	可能な限り習慣を大切にしていきたいが、業務が優先となることが多い。入浴の長さ、入りたいかは本人に任せている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	歌やレクリエーションなど興味のある事を行うなど、表情や言葉が引き出せるような言葉がけや雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	歌やレクリエーションなど興味のある事を行いながら、表情や反応を注意深く観察し本人の意向にそった暮らしができるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	介助時には声をかけ同意を得てから介助に入るように心がけている。	○	○	○	職員は毎月、拘束や虐待のチェックシートで確認することで人権や尊厳について意識するよう努め、ケアに活かしている。利用者を人生の先輩として敬い、さり気ない声かけができるよう支援している。部屋に入る際にはノックと声かけを行うなど、プライバシーの配慮は徹底している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレなど大きな声で声掛けをするのではなく耳元で話すようにしたり、声のトーン、早さ、口調に注意している。耳の遠い方もおられる為声が大きくなってしまいますこともある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	希望者には同性介助にて入浴していただいている。また、排泄介助には同意を得てから入るようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際にはノックをしてから入るようにしている。また、居室掃除やシーツ交換時には同意を得てから行うようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員一人一人が理解し守っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理などわからないときには教えていただき常に感謝の気持ちを言葉にし伝えている。	/	/	/	世話役の利用者を中心に円滑な関係づくりができている。利用者同士の意見が合わない時は、職員が仲介役になるなど、いい関係が継続できるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で作業したり一緒に過ごす時間を大切にしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	お互いを気にかけてながら孤立しないように自然な関係性ができている。また、トラブルが起きた時には職員が間に入り対応している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り対応している。必要に応じて席替えも検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居前の調査表や面会者の確認をし把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	故郷訪問や地域への外出を行うことで把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	地域の行事参加やデイサービスとの交流を図りながら、関係が途絶えないように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ゆっくり過ごしていただけるように、居室でお話をさせていただいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	何気ない日常の会話を通じて希望を伺い、外食やドライブ催し物等へ出かけられるように支援している。また、天気の良い日には荘外の散歩を行うようにしている。	○	×	○	利用者の希望を取り入れ、家族の協力を得ながら遠出の外出をしたり、自宅に帰るなど支援している。重度の利用者も事業所周辺の散歩をしたり、菜園の水やりを日常的に行っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在行っていないが、今後は協力を得ながら行っていきたい。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	荘外の散歩、畑仕事や水やりなど一緒に行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族と一緒に外出や外食、ふるさと訪問など行っていただけることもある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	内・外部の勉強会へ参加し認知症の理解に努めている。ケアに自信がない時などはユニット会や職員会で話し合うようにしている。	/	/	/	調理の手伝いや掃除など、日常生活で自分でできることは取り組んでもらっており、職員は静かに見守りながら時にはサポートするなど支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の荘内散歩や口腔体操、食事・水分・排泄など記入しながら確認を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できるだけ自分で行っていただけるように、見守りを行い出来ないところは介助を行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	菜園での野菜作りや掃除や洗濯、調理など一人ひとりが得意なことを毎日の役割として行っている。	/	/	/	食器拭きや後片づけ、洗濯物たたみなど、利用者のできることを役割として担ってもらい、張り合いを持ちながら楽しんで取り組めるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	得意なことを毎日の役割として行って頂き、張り合いのある生活を送れるように支援している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の文化祭へ出品する為一緒に作品作りを行い、張り合いが持てるように支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	着替えの時には選んでいただくようにしているが、季節に関係なく着ようとすることもある為、職員よりになることもある。				着替えはこまめに行い、服装等の汚れがないか常に気を配るなど、整容の乱れがないよう支援している。利用者の状態にかかわらず、定期的に出張美容を利用し、自分らしさを保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	本人の希望にそってパーマやカットを行っている。希望者には行きつけだった美容室にてパーマを掛けられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	声掛けの工夫をしながら選んでいただくようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	普段より好みの服を着ていただいたり、困難な場合には声かけの工夫をしながら服を選んでいただくようにしている。また、施設内で開催している盆踊り交流会では希望者の方には、浴衣を着ていただいている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れた部分などほかの方に見えない様にしたたり、着替えていただくようにしている。男性の方はご自分でひげを剃られているが、剃り残しがある場合にはさりげない声かけをするよう心がけている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望される方には地域にあるお店へ行けるように支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に出張美容で支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解したうえで一緒に会話を楽しみながら食事をとるようにしている。				調理の味見や後片づけなどできる利用者にははしてもらっている。菜園で採れるきゅうりやナスなど季節の野菜を使用し、昔なつかしいメニューを取り入れるなど工夫している。食器は好みの物を持ち込み使用している。利用者と職員は同じテーブルを囲み食事を摂り、重度な利用者にもメニューを伝えたり、調理の様子を見てもらうなど雰囲気づくりに努めている。併設の特別養護老人ホームの栄養士と話し合う機会を持ち、アドバイスを受けるなど、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるような献立づくりに努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理や片づけは可能な限り手伝って頂き一緒にやっている。献立・買い物・食材選びは職員が行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理・盛り付け・後片付けの中で可能な限り行って頂く事で、自信や達成感につなげられるように支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギーは代替えにて対応しわかるように冷蔵庫へ貼っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の野菜を使用するなどして季節を感じていただけるように努めている。また、月2回の行事食でも季節を感じていただけるように支援している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	基本常食で提供しているが、利用者に合わせ1口大にしたり、健康状態に合わせておかゆに変更したりしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ってこられた方にはご自分のものを使用して頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は職員も一緒に食べさりげなくサポートができるように努めている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	メニューを伝えたり、作業風景を見てもらい美味しく味わって頂けるような雰囲気作りに努めている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	カロリーや栄養バランスはできていないが、食事や水分の摂取量が少ない方には声掛けを行ったり好きなものへ替え提供している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量が少ない方にはコップを小さくしたり、好きな飲み物に変えたり水分ゼリーを作り提供している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は併設の特養の栄養士が作成している。調理方法などわからない時には都度確認を行っているが、定期的な話し合いは行っていない。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	届いた食事はすぐに冷蔵庫に保管するようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	年に1回歯科医師による勉強会を開催し必要性や重要性は理解している。	/	/	/	週1回、歯科医の往診で利用者の口腔内をチェックし状況を把握している。日頃利用者にはできる限り自分で歯磨きをしてもらい、磨き残しなどは職員がチェックしサポートするなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に痛みや噛み合わせなどを確認し必要に応じて歯科へ依頼している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	年に1回歯科医師による勉強会を開催し得た知識を日常のケアに活かせるように努めている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、介助の必要な方には介助を行っている。また、週2回ポリドントで洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケアの傍らで観察し必要時には声掛けし対応している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	協力医による週1回の訪問時に必要に応じてみてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	安易に紙パンツやおむつにしないようにしている。できるだけトイレでの排泄を促すようにしている。状態の変化がみられた時にはユニット内で話し合うようにしている。	/	/	/	トイレでの排泄を基本として支援している。排泄チェック表を用いてパット、リハビリパンツ、オムツなどを利用者の状況に応じて使用しているが、安易に使用しないよう職員同士で検討し共有しながら、利用者の状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており食事・水分・運動には十分気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記入し把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで排泄したいという思いを大切に、安易におむつにしないようにしている。状態の変化に応じてユニット会等で話し合い状態にあった支援を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	朝食時には週1回ヨーグルトを提供している。また、出にくい人には毎日ヨーグルトやサンファイバーなどを提供している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表確認しながら声掛け・誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	○	ユニット会やカンファレンスで話し合い、必要に応じて合うものを使用している。また、家族にも相談している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて昼夜の使い分けや外出時の使い分けなど適時に行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	下剤を使わない自然排便を心がけており、サンファイバーやヨーグルト、乳酸菌飲料などを使用している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯は希望に添えていない。希望者には同性介助で入浴して頂き、入浴の長さ、温度は希望に添えるように努めている。	◎	/	△	同性介助や湯温、浸かる時間などは利用者の希望に沿っているが、曜日や時間帯は事業所の都合になっているため、臨機応変な対応に取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個浴のためゆっくり入浴して頂いている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できるところはご自分で行って頂き、できないところは支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、声掛けの工夫をしながら気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	○	無理強いせず、声掛けの工夫をしながら気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には血圧測定・検温を行い、健康状態を確認したうえで入浴を行って頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤帯の様子をケース記録に残し全職員が把握できるように努めている。	/	/	/	日中の活動を多くしたり、優しい音楽を流すなど工夫をし、安易に薬に頼らないよう支援している。安眠できない利用者には、医師と相談しながら対応するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり落ち着ける環境づくりに心がけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中・夜間の様子を詳しくケース記録に残し、職員間で話し合いを行い看護師や主治医に相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの生活習慣に合わせ休みたいときに、休みたい場所で休んで頂けるように配慮し、本人のペースで安心して休息できるように支援している。また、夜間で眠れない方にはゆっくり話を聞いたり、傍に寄り添い安心して眠れるように支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望時には行える環境となっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話がかかってきたら本人にかわり対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ユニットに電話がありいつでも電話ができるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室に貼ったりファイリングしたりいつでも見れるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話や手紙など送って頂けている。本人が話したいときには電話を掛けることについての理解も得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが、入居時に現金は預からない事を説明し同意いただいている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	施設内で自由にジュースを買われることはあるが、必要物品の買い物は職員が代行に行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に出かける機会を作ることができていないので行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居時に現金は預からない事を説明し同意いただいている。希望があり、家族の同意があれば少額のお金を所持できるようになっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	欲しいもの・必要なものがあれば家族へ相談し購入している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭の管理は家族が行っている。何かを購入する場合には家族に了承を得て購入している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望や状態にそったサービスが提供できるように努めている。	○	/	○	当日の通院要望など、急な外出支援にも臨機応変に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関の周りには花壇があり、また玄関にはウエルカムボードを置き本日の予定を書きわかるようにしている。	◎	◎	◎	小学生が定期的に届けてくれる季節の花や、町からバラの花の提供などがあり、花壇に植えられている。玄関回りはきれいに整理整頓され、気持ちがよくいい雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の壁画や花を飾り、冬場には畳スペースにこたつを置き季節感を出すようにしている。	◎	◎	○	季節の花や冬場には畳コーナーにこたつを出すなど、雰囲気づくりを大切にしている。掃除や空気の入替えなどこまめに行い、清潔感を保持している。壁の掲示物は季節毎に張り替えるなど、季節感が味わえるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	声のトーンなど不快な音には十分注意し、換気や掃除は毎日行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた行事に参加してもらい居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	それぞれ思い思いの場所で過ごせるようソファを置くなどしている。冬には畳スペースにこたつを置き自由に過ごせるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えない作りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時には家族に依頼して家族の写真や使い慣れた家具等馴染みのあるものを持ち込んで頂き居心地よく過ごせるようにしている。	○	/	○	家族の写真や置物、使い慣れた家具などを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人ひとりの「わかること」や「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い今ある力を発揮して可能な限り自立した生活が送れるように支援している。	/	/	/	利用者が菜園で野菜づくりをしたり、生け花を楽しんだり笑顔で自立した生活が送れるよう支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱など利用者の行動・言動をケース記録に残しユニット会などで検討している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	個人で持たれている方もいるが、共有スペースに置いていない。使用したい時には渡せるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中鍵をかけることはせず、入り口にはチャイムをつけ出入りがわかるようにしている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は出入り自由である。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望まれる家族はいない。今後安全優先のため施錠を望まれた場合には話し合いが行えるようにしていきたい。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中ユニットの入り口は鍵をかけないようにしている。また、玄関は自動ドアでチャイムが鳴るようになっているので人の出入りがわかる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートや薬剤情報を置き、いつでも見れるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	ケース記録や身体状況表、排泄チェック表に残し身体の変化や異常のサインを早期に見つけるように努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	いつでも看護師や主治医に相談できる環境となっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	全員協力医が主治医となっている。専門医への受診は相談しながら行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	相談し了承を得たうえで協力医が主治医となっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	可能な家族には受診に同行していただいている。難しい場合には結果のみ報告している。本人には一緒に説明を聞いてもらっている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	△	口頭にて説明を行っていたが今後は作成したサマリーを使用していきたい。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には家族同席のもと必要な情報を伝え、安心して治療ができるように支援している。また、入院中には面会へ行き状態把握に努めている。退院時には医療連携室を通じて情報交換や相談を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	入院中は行っているが日ごろからの関係作りは行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	併設の特養に看護師へ利用者の状況を報告している。また、週1回看護師によるバイタル測定を行い、医療面の助言をもらっている。看護師とは24時間連絡が取れ医療連携体制も整えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間連絡が取れ医療連携体制が整えられている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	いつもと様子が違うときには小さな事でも看護師に相談し、早期発見・治療ができるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤情報をファイリングし見やすい場所に置き理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬には十分注意し医師に指示どおり服薬できるように支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を確認している。また、状態や様子はケース記録に残している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化や経過を細かく記録に残し往診時には主治医へ伝えるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの指針を定め入居時に説明を行い、同意を得ている。重度化した場合には家族の意向を確認しながら、家族・医師・看護師・職員が連携しやすい最期を迎えられるような支援に取り組んでいる。	/	/	/	看取り指針を定め、主治医を中心に話し合いを行い、家族の意向を確認しながら、関係者全員で共有を図り支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取りの指針を定め他職種や主治医と話し合い共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応経験が少ない職員が多い為看取りに対して不安な思いを持っている。勉強会や研修への参加を増やしていきたい。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの指針を定め入居時に説明を行い同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態の経過や変化を細かく記録に残し家族や主治医、特養の看護師との連携が図れる体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に話をしたり、看取り後グリーフケアとしてお手紙を書いている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修・施設内研修、感染予防対策委員会で学ぶ機会を設けている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	施設内の勉強会では嘔吐時の対応をデモンストレーションで行うようにしている。また感染キッドを各ユニットに置きその中には手順を書いたものも入れている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染委員長が中心となり最新情報を入手し、発信している。また、主治医に地域の感染状況も聞くようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染委員長が中心となり最新情報を入手し、発信している。また、主治医に地域の感染状況も聞くようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時には手洗いやうがいを行うようにしている。また来訪者にも声掛けを行い手洗いやうがいを行っている。感染時期にはマスク着用していただき体調不良時には面会を見合わせていただいている。入居者の方々には排泄後の手洗いや毎食前の手洗いを行っただくよう声掛けを行っている。また、手洗後はペーパータオルを使用うしていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会に来られない家族にも日々の様子がわかるように毎月の通信には写真を掲載し近況を報告している。また、外出・外泊、定期的な面会もあり家族とともに本人を支える協力関係を築いている。	/	/	/	利用者の誕生会や全体行事には案内を行い、家族が参加できるように機会をつくっている。遠方の家族には毎月の便りに利用者の日ごろの様子を添え送付したり、定期的に電話をするよう心がけている。職員の異動や事業所の設備等については、運営推進会議で施設長が報告している。家族の面会時は必ず声かけを行い、意見や要望等が言いやすいよう雰囲気づくりにも努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゲストルームを用意しており、気軽に宿泊できるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	全体行事や誕生会には家族への呼びかけをし参加していただいている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月通信に行事や普段の様子をのせお送りしている。また、状態の変化があるときだけではなく約3ヶ月に1度のペースで電話にてご様子をお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	体調面や精神面にポイントを置き具体的内容を説明している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	状態等細かく報告し理解していただき、より良い関係が築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	施設の広報や通信、運営推進会議、家族会等で報告している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や行事等への参加で交流の機会を設けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居契約時に説明を行っている。また、近況報告時に説明をするように努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には声をかけ近況を報告している。また、面会に来られない遠方の方には電話で近況を報告するようにしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には家族に重要事項説明書と契約書の内容を十分に説明しご理解いただいている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状態が変化した時には家族と話し、納得がいく退去先に移れるように努めている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居後に変更する際には2か月前に文章で説明を行い同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設前に施設見学を行い理解を図っている。	/	◎	/	地区の文化祭には利用者の作品を出品するなど、地域の行事には積極的に参加協力を努めており、地域との関係の構築に努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩をされている方やみかん山に来られた方へのあいさつや地域の行事へ積極的に参加している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	挨拶をしたりする関係は築けているが、それ以上の関係は築けていない。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	立地的に町から離れているので難しい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	立地的に隣近所がない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	盆踊り交流会や茶道・喫茶ほのぼのなどボランティアの方が参加して支援していただいている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の方と協働し様々な行事を行っている。また、地域の催し物の情報を得て参加している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	小・中・高校生の訪問やデイサービスとの交流を図り関係を深める取り組みを行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2カ月に1回開催し家族や地域の方、行政、学校(保育所、小・中・高校)に参加していただいている。	○	/	○	会議には利用者や家族、地域役員、学校関係者らが参加している。外部評価等の取組みについて毎回報告しており、議事録にも記載されている。外部評価で提案のあった地域との避難訓練にも取り組み、地域との連携強化を図ったことを運営推進会議でも報告するなど、積極的に取り組んでいる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の報告を行い会議録に残している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	いただいた意見や提案は責任者会議や職員会で報告しサービスの向上に活かしている	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	行事にあわせて日程や時間調節を行っている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	記録した議事録は玄関に置き、自由に閲覧できるようになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	開設前から3回理念を見直し、より分かりやすい言葉に変えた。また、日常的に取り組めるように介護計画を立て両ユニット共有の壁へ掲示している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	家族には通信にて説明している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の予定について共有スペースに掲示している。	/	/	/	代表者は有給休暇やリフレッシュ休暇、誕生日休暇など、職員の休暇取得には積極的で、希望に応じシフト変更にも臨機応変に対応するなど働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体の年間勉強会計画がありスキルアップできるように努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の面談時に要望を聞く機会を作っており、可能な限りできるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内事業所相互の運営推進会議に参加し、情報交換やネットワークづくりに努めている。また、行事を通じてデイサービスとの交流を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面談時にゆったり話を聞きストレスの軽減が図れるように努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	2か月に1回の委員会や内・外部の研修に参加し理解に努めている。	/	/	/	マニュアルが作成されており、発見した場合の対応方法や手順について職員は認識している。勉強会などを通じ、意識向上を図り職員のスキルアップにつなげている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	気になるところは申し送り時や職員会で話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごすことがないように努めている。また、発見した場合の対応方法や手順についてはマニュアルに記載し周知に努めている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	日々の中での会話や表情で感じ取り話をしているようにしているがなかなか難しい。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	2か月に1回の委員会や内・外部の研修に参加し理解に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部での勉強会で話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在そのような事例がない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	外部研修へ参加し理解に努めているが、全職員が理解はできていない。今後も研修への参加を増やしていきたい。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在行っていないが、今後はパンフレットを置いたり相談にのれる環境づくりを行っていきたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現在支援が必要な方がいない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し全職員に周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修への参加や毎月の委員会、年2回の勉強会にて実践力を身につけられるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ユニット会や職員会で事故やヒヤリハットについて話を行うようにしている。また、検討会も開催し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット会や職員会で利用者の状態をはなし、事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応のマニュアルは作成していない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	過去1件しか苦情がない。苦情が寄せられた際には速やかに手順にそって対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられた際には速やかに手順にそって対応し納得が得られるようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	カンファレンスで意見や要望はお聞きしている。また、介護相談員さんの受け入れを行っている為その時にお話をされているが特に要望や苦情は聞かれていない。	/	/	△	利用者の意見や要望を聞くことが少ないため、職員からの声かけなどに工夫をし、把握できるよう努力していきたいと考えている。家族には運営推進会議で要望を聞き、運営に活かせるよう努めている。管理者は面談やユニット会で職員からの要望や提案を聞く機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議、家族会また近況をお伝えし際、意見や要望をお聞きする機会としている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時のみしか行っていない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	年2回の面談や責任者会議を意見や要望・提案を聞く機会としている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	面談やユニット会、職員会を意見や要望・提案を聞く機会としている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員会でサービス評価について説明し全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議や便りで報告を行い、メンバーからは意見や提案をもらうなど、今後の取り組みのモニターをしてもらっており、運営に活かせるよう努めている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員会で話し、活かせるように努めている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標が達成できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や通信にて評価結果や今後の取り組みについて報告している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行っていないため今後は行っていきたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルは作成している。	/	/	/	地区の消防団と合同で避難訓練を行い連携強化できるよう努めている。原子力災害避難訓練にも参加し、日ごろより防災意識をもてるよう努力している。事業所は放射線防護施設を整備し、利用者の安全確保に万全を期している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	防災委員長を中心に様々な時間帯を想定した訓練計画を作成し、消防署立ち合いのもと訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常用食料は特養の栄養士が定期的に確認し点検をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いのもと訓練を実施している。また、今年度は地元の消防団との合同訓練を行うことができた。今後も継続して行っていきたい。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防署立ち合いのもと訓練を実施している。また、今年度は地元の消防団との合同訓練を行うことができた。今後も継続して行っていきたい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	中高生の職場体験の受け入れを行っている。	/	/	/	相談支援にまで至っていないのが現状で、事業所のPRをするなど、相談ニーズが増えるような取り組みが望まれる。地域の行事にはできるだけ参加するよう努めている。地元社会福祉協議会にも事業所のサロンを利用してもらうよう提案するなど関係づくりに努力している。近隣に道の駅などもあることから事業所の周知協力を依頼するなど、今後も継続して地域のケア拠点となるような取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	今後相談支援を行う機会を作っていきたい。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	まだ行っていないが、社会福祉協議会へ依頼している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中高生の職場体験の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の行事に参加している。	/	/	△	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月24日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3893700025
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	梶原 仁美
自己評価作成日	平成30年 6月 30日

<p>【事業所理念】 ここに入所してよかったと思っただけのグループホームを作る</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 地域の消防団との合同火災対応避難訓練を行った。実際に消防団が消火栓を使用して放水訓練を行った。避難は雨天のため規模は縮小となったが、初めて行うことで施設の作りや救助方法等確認していただくことができた。今後も継続していきたい。施設を解放しサロンなどに使用していただくために、社会福祉協議会へ依頼を行っているがまだ実現できていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 東南海地震等巨大地震による津波被害を想定し、海拔33メートルの高台に位置する事業所は開設5年目を迎える。原子力災害対策重点区域に位置する事業所は、伊方原発が災害に見舞われた際の緊急時対応として、放射線防護施設を設置するなど、利用者の安全確保に万全を期している。また前回の外部評価で課題に上がっていた地域とのつながりについても前向きに捉え、地域住民などと連携し合同避難訓練を行い、運営推進会議で報告するなど、積極的な取り組みを実施している。施設長と管理者を中心に職員一丸となり、利用者が毎日笑顔で過ごせるよう、サービスのさらなる向上に努めている。</p>
---	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前の調査時やケアプランの見直し時に希望や意向を聞いている。また、日々の会話や表情から本人の思いをくみ取れるように努めている。	○	/	○	入居前に思いや意向を確認し、日々の暮らしの中で会話や表情を大切にしながら思いを汲み取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日常の様子や表情・行動等で本人の視点にたち、検討できるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族とは面会時や電話・通信にて状態をお伝えし、話をする機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入居前の調査票や日常の様子をケース記録や申し送りノートに残し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間で気づきを話し合いながら本人の思いにそえるように気をつけている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の調査時やアセスメントを参考にしている。また、気になることは面会時や電話などでご家族に聞いている。	/	/	○	家族からこれまでの暮らしぶりやこだわりなどを聞いており、他に気になることなどがある場合は、面会時に改めて確認するなど情報の収集に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し情報の共有と連携を図り、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の様子をケース記録に残し、職員間で情報を共有し把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の様子をケース記録に残し、職員間で話し合いまた、多職種とも連携を図りながら把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケース記録や身体状況表に記録し日々の変化など把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の会話や様子、職員の気づきをもとにユニット会やカンファレンス時に話し合っている。	/	/	○	毎月のユニット会議で、利用者が何を求めているか、利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	できること、できないこと、何が不安でどうすれば喜んでいただけるかを考えながら話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会やカンファレンスで話し合い、ケアプランに反映している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	カンファレンス時に参加していただいているが、あまり意見を言わないことが多い。そのため普段の何気ない会話の中から思いや意向を見つけ反映できるように努めている。				本人の心身の状況を踏まえながら、職員は家族と話し合いながら昔から好きなことを取り入れるなど、意見を反映して介護計画を作成している。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族から意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映し介護計画をしている。また、往診時には主治医より助言をもらいケアに生かしている。	○		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	農家をされていた方には施設近くの菜園のお世話を一緒にしていただいたり、お花がお好きな方には水やりと一緒にしていただくなどを盛り込んだ内容となっている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族に協力依頼し地域行事の参加や面会回数を増やしていただくようお願いしている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでも見られるようにファイルに閉じ共有している。			○	介護計画は個人ファイルで共有を図り、ケース記録に残し、毎日のケアの実践を確認している。利用者の言葉や表情等は細かく書き添えている。ユニット会議で利用者一人ひとりについて話し合い、気づき等がある場合は丁寧に記録している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケース記録に残し、毎日モニタリングを行い現状確認ができるようになっている。また、申し送り時には状況の変化の確認を行っている。			○		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	身体状況表への記入や、毎日の様子をケース記録に残している。ケース記録に関しては病院受診が必要になる場合もあるため詳細に残すように心がけている。			○		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ユニット会で利用者一人一人について状態や気づきなどを話し合い会議録に残している。			○		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年で見直しを行っている。			○	基本6か月毎に見直しを行っている。毎日モニタリングを行い、月1回のユニット会議で問題点について話し合っている。状態に変化があった場合にはその都度見直しがされ、利用者にとってより良い介護計画となるよう、職員は家族と話し合いながら取り組んでいる。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎日モニタリングを行い、月末には総括をし現状確認を行っている。			○		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化が生じた場合には、家族等へ連絡し見直しを行うようにしている。			○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月職員会やユニット会を行い、また必要時には緊急ミーティングを開催している。			○	毎月ユニット会議や職員会議を開催している。必要時には緊急ミーティングを行い、課題解決を図るようにしている。参加できない職員は、ユニット会ノートを確認するなどし共有に努めている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	参加者全員が発言できるように問いかけを行い、意見交換をしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	変則勤務のため全員の参加は難しいが、遠方の職員の勤務に合わせるように工夫している。また、昼間に行うようにしている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを見てもらい、また口頭でも申し送るようにしているが、きちんと伝わらないこともある。ユニット会や職員会で仕組みについて話し合いを行っている。			○		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	ケース記録や連絡ノートなどで共有している。確実にできていないこともあるため、ユニット会や職員会で仕組みについて話し合いを行っている。			○	利用者の状況は申し送りノート、その他の事項については連絡ノートで使い分けをして情報伝達している。確認後はサインを忘れないよう留意している。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ケース記録や連絡ノートなどで共有している。確実にできていないこともあるため、ユニット会や職員会で仕組みについて話し合いを行っている。	○				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	施設内でできることは可能な限り叶える努力はしているが、外出は立地的にも難しく事前に希望を聞き計画を立てている。	/	/	/	職員は利用者が自己決定できるよう支援している。食事介助時にも食べたい物を聞きながら口へ運ぶなど、表情などを確認しながら支援している。趣味を活かした生け花や菜園の世話など、利用者の生き生きした言動や表情が出せるよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	自己決定の場面づくりを大切にしながら、生活の中で関わりながら声掛けを行っている。意思疎通が困難な方もおられるためわかりやすい声掛けを行いながら自己決定の機械や場を作るように努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	一人一人に合わせた声掛けを行いながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	可能な限り習慣を大切にしていきたいが、業務が優先となることが多い。入浴の長さ、入りたいかは本人に任せている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	歌やレクリエーションなど興味のある事を行うなど、表情や言葉が引き出せるような言葉がけや雰囲気づくりに努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	歌やレクリエーションなど興味のある事を行いながら、表情や反応を注意深く観察し本人の意向にそった暮らしができるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	介助時には声をかけ同意を得てから介助に入るように心がけている。	○	○	○	職員は毎月、拘束や虐待のチェックシートで確認することで人権や尊厳について意識するよう努め、ケアに活かしている。利用者を人生の先輩として敬い、さり気ない声かけができるよう支援している。部屋に入る際にはノックと声かけを行うなど、プライバシーの配慮は徹底している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレなど大きな声で声掛けをするのではなく耳元で話すようにしたり、声のトーン、早さ、口調に注意している。耳の遠い方もおられる為声が大きくなってしまいますこともある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	希望者には同性介助にて入浴していただいている。また、排泄介助には同意を得てから入るようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る際にはノックをしてから入るようにしている。また、居室掃除やシーツ交換時には同意を得てから行うようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員一人一人が理解し守っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理などわからないときには教えていただき常に感謝の気持ちを言葉にし伝えている。	/	/	/	世話役の利用者を中心に円滑な関係づくりができている。利用者同士の意見が合わない時は、職員が仲介役になるなど、いい関係が継続できるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で作業したり一緒に過ごす時間を大切にしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	お互いを気にかけてながら孤立しないように自然な関係性ができている。また、トラブルが起きた時には職員が間に入り対応している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り対応している。必要に応じて席替えも検討している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居前の調査表や面会者の確認をし把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	故郷訪問や地域への外出を行うことで把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	地域の行事参加やデイサービスとの交流を図りながら、関係が途絶えないように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ゆっくり過ごしていただけるように、居室でお話をさせていただいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	何気ない日常の会話を通じて希望を伺い、外食やドライブ催し物等へ出かけられるように支援している。また、天気の良い日には荘外の散歩を行うようにしている。	○	×	○	利用者の希望を取り入れ、家族の協力を得ながら遠出の外出をしたり、自宅に帰るなど支援している。重度の利用者も事業所周辺の散歩をしたり、菜園の水やりを日常的に行っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在行っていないが、今後は協力を得ながら行っていきたい。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	荘外の散歩、畑仕事や水やりなど一緒に行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族と一緒に外出や外食、ふるさと訪問など行っていただけることもある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	内・外部の勉強会へ参加し認知症の理解に努めている。ケアに自信がない時などはユニット会や職員会で話し合うようにしている。	/	/	/	調理の手伝いや掃除など、日常生活で自分でできることは取り組んでもらっており、職員は静かに見守りながら時にはサポートするなど支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日の荘内散歩や口腔体操、食事・水分・排泄など記入しながら確認を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できるだけ自分で行っていただけるように、見守りを行い出来ないところは介助を行っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	菜園での野菜作りや掃除や洗濯、調理など一人ひとりが得意なことを毎日の役割として行っている。	/	/	/	食器拭きや後片づけ、洗濯物たたみなど、利用者のできることを役割として担ってもらい、張り合いを持ちながら楽しんで取り組めるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	得意なことを毎日の役割として行って頂き、張り合いのある生活を送れるように支援している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の文化祭へ出品する為一緒に作品作りを行い、張り合いが持てるように支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	着替えの時には選んでいただくようにしているが、季節に関係なく着ようとすることもある為、職員よりになることもある。				着替えはこまめに行い、服装等の汚れがないか常に気を配るなど、整容の乱れがないよう支援している。利用者の状態にかかわらず、定期的に出張美容を利用し、自分らしさを保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	本人の希望にそってパーマやカットを行っている。希望者には行きつけだった美容室にてパーマを掛けられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	声掛けの工夫をしながら選んでいただくようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	普段より好みの服を着ていただいたり、困難な場合には声かけの工夫をしながら服を選んでいただくようにしている。また、施設内で開催している盆踊り交流会では希望者の方には、浴衣を着ていただいている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れた部分などほかの方に見えない様にしてたり、着替えていただくようにしている。男性の方はご自分でひげを剃られているが、剃り残しがある場合にはさりげない声かけをするよう心がけている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望される方には地域にあるお店へ行けるように支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に出張美容で支援を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	理解したうえで一緒に会話を楽しみながら食事をとるようにしている。				調理の味見や後片づけなどできる利用者にははしてもらっている。菜園で採れるきゅうりやナスなど季節の野菜を使用し、昔なつかしいメニューを取り入れるなど工夫している。食器は好みの物を持ち込み使用している。利用者と職員は同じテーブルを囲み食事を摂り、重度な利用者にもメニューを伝えたり、調理の様子を見てもらうなど雰囲気づくりに努めている。併設の特別養護老人ホームの栄養士と話し合う機会を持ち、アドバイスを受けるなど、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるような献立づくりに努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理や片づけは可能な限り手伝って頂き一緒にやっている。献立・買い物・食材選びは職員が行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理・盛り付け・後片付けの中で可能な限り行って頂く事で、自信や達成感につなげられるように支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギーは代替えにて対応しわかるように冷蔵庫へ貼っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の野菜を使用するなどして季節を感じていただけるように努めている。また、月2回の行事食でも季節を感じていただけるように支援している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	基本常食で提供しているが、利用者に合わせ1口大にしたり、健康状態に合わせておかゆに変更したりしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ってこられた方にはご自分のものを使用して頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は職員も一緒に食べさりげなくサポートができるように努めている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	メニューを伝えたり、作業風景を見てもらい美味しく味わって頂けるような雰囲気作りに努めている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	カロリーや栄養バランスはできていないが、食事や水分の摂取量が少ない方には声掛けを行ったり好きなものへ替え提供している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量が少ない方にはコップを小さくしたり、好きな飲み物に変えたり水分ゼリーを作り提供している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は併設の特養の栄養士が作成している。調理方法などわからない時には都度確認を行っているが、定期的な話し合いは行っていない。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	届いた食事はすぐに冷蔵庫に保管するようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	年に1回歯科医師による勉強会を開催し必要性や重要性は理解している。	/	/	/	週1回、歯科医の往診で利用者の口腔内をチェックし状況を把握している。日頃利用者にはできる限り自分で歯磨きをしてもらい、磨き残しなどは職員がチェックしサポートするなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に痛みや噛み合わせなどを確認し必要に応じて歯科へ依頼している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	年に1回歯科医師による勉強会を開催し得た知識を日常のケアに活かせるように努めている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、介助の必要な方には介助を行っている。また、週2回ポリドントで洗浄を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケアの傍らで観察し必要時には声掛けし対応している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	協力医による週1回の訪問時に必要に応じてみてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	安易に紙パンツやおむつにしないようにしている。できるだけトイレでの排泄を促すようにしている。状態の変化がみられた時にはユニット内で話し合うようにしている。	/	/	/	トイレでの排泄を基本として支援している。排泄チェック表を用いてパット、リハビリパンツ、オムツなどを利用者の状況に応じて使用しているが、安易に使用しないよう職員同士で検討し共有しながら、利用者の状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており食事・水分・運動には十分気を付けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記入し把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで排泄したいという思いを大切に、安易におむつにしないようにしている。状態の変化に応じてユニット会等で話し合い状態にあった支援を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	朝食時には週1回ヨーグルトを提供している。また、出にくい人には毎日ヨーグルトやサンファイバーなどを提供している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表確認しながら声掛け・誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	○	ユニット会やカンファレンスで話し合い、必要に応じて合うものを使用している。また、家族にも相談している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて昼夜の使い分けや外出時の使い分けなど適時に行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	下剤を使わない自然排便を心がけており、サンファイバーやヨーグルト、乳酸菌飲料などを使用している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯は希望に添えていない。希望者には同性介助で入浴して頂き、入浴の長さ、温度は希望に添えるように努めている。	◎	/	△	同性介助や湯温、浸かる時間などは利用者の希望に沿っているが、曜日や時間帯は事業所の都合になっているため、臨機応変な対応に取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個浴のためゆっくり入浴して頂いている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できるところはご自分で行って頂き、できないところは支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず、声掛けの工夫をしながら気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	○	無理強いせず、声掛けの工夫をしながら気持ちよく入浴して頂けるように支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には血圧測定・検温を行い、健康状態を確認したうえで入浴を行って頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤帯の様子をケース記録に残し全職員が把握できるように努めている。	/	/	/	日中の活動を多くしたり、優しい音楽を流すなど工夫をし、安易に薬に頼らないよう支援している。安眠できない利用者には、医師と相談しながら対応するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり落ち着ける環境づくりに心がけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中・夜間の様子を詳しくケース記録に残し、職員間で話し合いを行い看護師や主治医に相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの生活習慣に合わせ休みたいときに、休みたい場所で休んで頂けるように配慮し、本人のペースで安心して休息できるように支援している。また、夜間で眠れない方にはゆっくり話を聞いたり、傍に寄り添い安心して眠れるように支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望時には行える環境となっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話がかかってきたら本人にかわり対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ユニットに電話がありいつでも電話ができるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室に貼ったりファイリングしたりいつでも見れるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話や手紙など送って頂けている。本人が話したいときには電話を掛けることについての理解も得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているが、入居時に現金は預からない事を説明し同意いただいている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	施設内で自由にジュースを買われることはあるが、必要物品の買い物は職員が代行に行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に出かける機会を作ることができていないので行えていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居時に現金は預からない事を説明し同意いただいている。希望があり、家族の同意があれば少額のお金を所持できるようになっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	欲しいもの・必要なものがあれば家族へ相談し購入している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭の管理は家族が行っている。何かを購入する場合には家族に了承を得て購入している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	希望や状態にそったサービスが提供できるように努めている。	○	/	○	当日の通院要望など、急な外出支援にも臨機応変に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関の周りには花壇があり、また玄関にはウエルカムボードを置き本日の予定を書きわかるようにしている。	◎	◎	◎	小学生が定期的に届けてくれる季節の花や、町からバラの花の提供などがあり、花壇に植えられている。玄関回りはきれいに整理整頓され、気持ちがよくいい雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の壁画や花を飾り、冬場には畳スペースにこたつを置き季節感を出すようにしている。	◎	◎	○	季節の花や冬場には畳コーナーにこたつを出すなど、雰囲気づくりを大切にしている。掃除や空気の入替えなどこまめに行い、清潔感を保持している。壁の掲示物は季節毎に張り替えるなど、季節感が味わえるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	声のトーンなど不快な音には十分注意し、換気や掃除は毎日行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた行事に参加してもらい居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	それぞれ思い思いの場所で過ごせるようソファを置くなどしている。冬には畳スペースにこたつを置き自由に過ごせるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えない作りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時には家族に依頼して家族の写真や使い慣れた家具等馴染みのあるものを持ち込んで頂き居心地よく過ごせるようにしている。	○	/	○	家族の写真や置物、使い慣れた家具などを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人ひとりの「わかること」や「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い今ある力を発揮して可能な限り自立した生活が送れるように支援している。	/	/	/	利用者が菜園で野菜づくりをしたり、生け花を楽しんだり笑顔で自立した生活が送れるよう支援に努めている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱など利用者の行動・言動をケース記録に残しユニット会などで検討している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	個人で持たれている方もいるが、共有スペースに置いていない。使用したい時には渡せるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることはせず、自由に入出入りができる状態である。常に所在確認を行うように心がけている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は出入り自由である。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望まれる家族はいない。今後安全優先のため施錠を望まれた場合には話し合いが行えるようにしていきたい。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	鍵をかけることはせず、自由に入出入りができる状態である。常に所在確認を行うように心がけている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートや薬剤情報を置き、いつでも見れるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	ケース記録や身体状況表、排泄チェック表に残し身体の変化や異常のサインを早期に見つけるように努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	いつでも看護師や主治医に相談できる環境となっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	全員協力医が主治医となっている。専門医への受診は相談しながら行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	相談し了承を得たうえで協力医が主治医となっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	可能な家族には受診に同行していただいている。難しい場合には結果のみ報告している。本人には一緒に説明を聞いてもらっている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	△	口頭にて説明を行っていたが今後は作成したサマリーを使用していきたい。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院時には家族同席のもと必要な情報を伝え、安心して治療ができるように支援している。また、入院中には面会へ行き状態把握に努めている。退院時には医療連携室を通じて情報交換や相談を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	入院中は行っているが日ごろからの関係作りは行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	併設の特養に看護職へ利用者の状況を報告している。また、週1回看護師によるバイタル測定を行い、医療面の助言をもらっている。看護師とは24時間連絡が取れ医療連携体制も整えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間連絡が取れ医療連携体制が整えられている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	いつもと様子が違うときには小さな事でも看護師に相談し、早期発見・治療ができるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤情報をファイリングし見やすい場所に置き理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れや誤薬には十分注意し医師に指示どおり服薬できるように支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を確認している。また、状態や様子はケース記録に残している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化や経過を細かく記録に残し往診時には主治医へ伝えるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	看取りの指針を定め入居時に説明を行い、同意を得ている。重度化した場合には家族の意向を確認しながら、家族・医師・看護師・職員が連携しやすい最期を迎えられるような支援に取り組んでいる。	/	/	/	看取り指針を定め、主治医を中心に話し合いを行い、家族の意向を確認しながら、関係者全員で共有を図り支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	看取りの指針を定め他職種や主治医と話し合い共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応経験が少ない職員が多い為看取りに対して不安な思いを持っている。勉強会や研修への参加を増やしていきたい。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	看取りの指針を定め入居時に説明を行い同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状態の経過や変化を細かく記録に残し家族や主治医、特養の看護師との連携が図れる体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に話をしたり、看取り後グリーフケアとしてお手紙を書いている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修・施設内研修、感染予防対策委員会で学ぶ機会を設けている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	施設内の勉強会では嘔吐時の対応をデモンストレーションで行うようにしている。また感染キッドを各ユニットに置きその中には手順を書いたものも入れている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染委員長が中心となり最新情報を入手し、発信している。また、主治医に地域の感染状況も聞くようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染委員長が中心となり最新情報を入手し、発信している。また、主治医に地域の感染状況も聞くようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時には手洗いやうがいを行うようにしている。また来訪者にも声掛けを行い手洗いやうがいを行っていただいている。感染時期にはマスク着用していただき体調不良時には面会を見合わせていただいている。入居者の方々には排泄後の手洗いや毎食前の手洗いを行っていただくよう声掛けを行っている。また、手洗いはペーパータオルを使用うしていただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会に来られない家族にも日々の様子がわかるように毎月の通信には写真を掲載し近況を報告している。また、外出・外泊、定期的な面会もあり家族とともに本人を支える協力関係を築いている。	/	/	/	利用者の誕生会や全体行事には案内を行い、家族が参加できるように機会をつくっている。遠方の家族には毎月の便りに利用者の日ごろの様子を添え送付したり、定期的に電話をするよう心がけている。職員の異動や事業所の設備等については、運営推進会議で施設長が報告している。家族の面会時は必ず声かけを行い、意見や要望等が言いやすいよう雰囲気づくりにも努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゲストルームを用意しており、気軽に宿泊できるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	全体行事や誕生会には家族への呼びかけをし参加していただいている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月通信に行事や普段の様子をのせお送りしている。また、状態の変化があるときだけではなく約3ヶ月に1度のペースで電話にてご様子をお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	体調面や精神面にポイントを置き具体的内容を説明している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	状態等細かく報告し理解していただき、より良い関係が築けるように支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	施設の広報や通信、運営推進会議、家族会等で報告している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会や行事等への参加で交流の機会を設けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居契約時に説明を行っている。また、近況報告時に説明をするように努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には声をかけ近況を報告している。また、面会に来られない遠方の方には電話で近況を報告するようにしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には家族に重要事項説明書と契約書の内容を十分に説明しご理解いただいている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状態が変化した時には家族と話し、納得がいく退去先に移れるように努めている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居後に変更する際には2か月前に文章で説明を行い同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設前に施設見学を行い理解を図っている。	/	◎	/	地区の文化祭には利用者の作品を出品するなど、地域の行事には積極的に参加協力を努めており、地域との関係の構築に努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩をされている方やみかん山に来られた方へのあいさつや地域の行事へ積極的に参加している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	挨拶をしたりする関係は築けているが、それ以上の関係は築けていない。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	立地的に町から離れているので難しい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	立地的に隣近所がない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	盆踊り交流会や茶道・喫茶ほのぼのなどボランティアの方が参加して支援していただいている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の方と協働し様々な行事を行っている。また、地域の催し物の情報を得て参加している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	小・中・高校生の訪問やデイサービスとの交流を図り関係を深める取り組みを行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2カ月に1回開催し家族や地域の方、行政、学校(保育所、小・中・高校)に参加していただいている。	○	/	○	会議には利用者や家族、地域役員、学校関係者らが参加している。外部評価等の取組みについて毎回報告しており、議事録にも記載されている。外部評価で提案のあった地域との避難訓練にも取り組み、地域との連携強化を図ったことを運営推進会議でも報告するなど、積極的に取り組んでいる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の報告を行い会議録に残している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	いただいた意見や提案は責任者会議や職員会で報告しサービスの向上に活かしている	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	行事にあわせて日程や時間調節を行っている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	記録した議事録は玄関に置き、自由に閲覧できるようになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	開設前から3回理念を見直し、より分かりやすい言葉に変えた。また、日常的に取り組めるように介護計画を立て両ユニット共有の壁へ掲示している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	家族には通信にて説明している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の予定について共有スペースに掲示している。	/	/	/	代表者は有給休暇やリフレッシュ休暇、誕生日休暇など、職員の休暇取得には積極的で、希望に応じシフト変更にも臨機応変に対応するなど働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体の年間勉強会計画がありスキルアップできるように努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の面談時に要望を聞く機会を作っており、可能な限りできるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内事業所相互の運営推進会議に参加し、情報交換やネットワークづくりに努めている。また、行事を通じてデイサービスとの交流を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面談時にゆっくり話を聞きストレスの軽減が図れるように努めている。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	2か月に1回の委員会や内・外部の研修に参加し理解に努めている。	/	/	/	マニュアルが作成されており、発見した場合の対応方法や手順について職員は認識している。勉強会などを通じ、意識向上を図り職員のスキルアップにつなげている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	気になるところは申し送り時や職員会で話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	見過ごすことがないように努めている。また、発見した場合の対応方法や手順についてはマニュアルに記載し周知に努めている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	日々の中での会話や表情で感じ取り話をしているようにしているがなかなか難しい。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	2か月に1回の委員会や内・外部の研修に参加し理解に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部での勉強会で話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在そのような事例がない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	外部研修へ参加し理解に努めているが、全職員が理解はできていない。今後も研修への参加を増やしていきたい。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在行っていないが、今後はパンフレットを置いたり相談にのれる環境づくりを行っていきたい。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	現在支援が必要な方がいない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し全職員に周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修への参加や毎月の委員会、年2回の勉強会にて実践力を身につけられるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ユニット会や職員会で事故やヒヤリハットについて話を行うようにしている。また、検討会も開催し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット会や職員会で利用者の状態を話し、事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応のマニュアルは作成していない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	過去1件しか苦情がない。苦情が寄せられた際には速やかに手順にそって対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられた際には速やかに手順にそって対応し納得が得られるようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	カンファレンスで意見や要望はお聞きしている。また、介護相談員さんの受け入れを行っている為その時にお話をされているが特に要望や苦情は聞かれていない。	/	/	△	利用者の意見や要望を聞くことが少ないため、職員からの声かけなどに工夫をし、把握できるよう努力していきたいと考えている。家族には運営推進会議で要望を聞き、運営に活かせるよう努めている。管理者は面談やユニット会で職員からの要望や提案を聞く機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議、家族会また近況をお伝えし際、意見や要望をお聞きする機会としている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時のみしか行っていない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	年2回の面談や責任者会議を意見や要望・提案を聞く機会としている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	面談やユニット会、職員会を意見や要望・提案を聞く機会としている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム 三崎つわぶき荘

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員会でサービス評価について説明し全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議や便りで報告を行い、メンバーからは意見や提案をもらうなど、今後の取り組みのモニターをしてもらっており、運営に活かせるよう努めている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員会で話し、活かせるように努めている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標が達成できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や通信にて評価結果や今後の取り組みについて報告している。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	行っていないため今後は行っていきたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルは作成している。	/	/	/	地区の消防団と合同で避難訓練を行い連携強化できるよう努めている。原子力災害避難訓練にも参加し、日ごろより防災意識をもてるよう努力している。事業所は放射線防護施設を整備し、利用者の安全確保に万全を期している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	防災委員長を中心に様々な時間帯を想定した訓練計画を作成し、消防署立ち合いのもと訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常用食料は特養の栄養士が定期的に確認し点検をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いのもと訓練を実施している。また、今年度は地元の消防団との合同訓練を行うことができた。今後も継続して行っていきたい。	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防署立ち合いのもと訓練を実施している。また、今年度は地元の消防団との合同訓練を行うことができた。今後も継続して行っていきたい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	中高生の職場体験の受け入れを行っている。	/	/	/	相談支援にまで至っていないのが現状で、事業所のPRをするなど、相談ニーズが増えるような取り組みが望まれる。地域の行事にはできるだけ参加するよう努めている。地元社会福祉協議会にも事業所のサロンを利用してもらうよう提案するなど関係づくりに努力している。近隣に道の駅などもあることから事業所の周知協力を依頼するなど、今後も継続して地域のケア拠点となるような取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	今後相談支援を行う機会を作っていきたい。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	まだ行っていないが、社会福祉協議会へ依頼している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中高生の職場体験の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の行事に参加している。	/	/	△	